

## ていねいな暮らしのあつたころ

## 佐野二彦の撮った伊深の里山



「ひおもで縫い仕事」(昭和38年2月2日撮影)

## 「縫い仕事」

縫い仕事は、女性の家内作業のひとつでした。農家の作業着であった「紺ももひき」をはじめとし、着物や布団など、あらゆるものが女性の手で作られました。また、傷んだ衣類はていねいに繕って使いました。

幼い子から嫁入り前の娘まで、寺の奥さん(おくりさん)などが教える近所の裁縫塾へ通いました。



「ぬいもの」(昭和39年12月20日撮影)

「はたおり」は、嫁入り道具として大事に使われました。養蚕をしていた家では、出荷できないくず繭を糸にひいて家庭用にご利用しました。

上の写真は、陽の当たる戸口のところで、もんぺの接ぎ当てをしている様子です。

左の写真は、裁板とくけ台があることから、和裁をしていることが分かります。

裁板…布を裁つときに用いる脚付きの台  
くけ台…縫いものをするときに針を刺しておいたり、布をびんと張ったりする道具